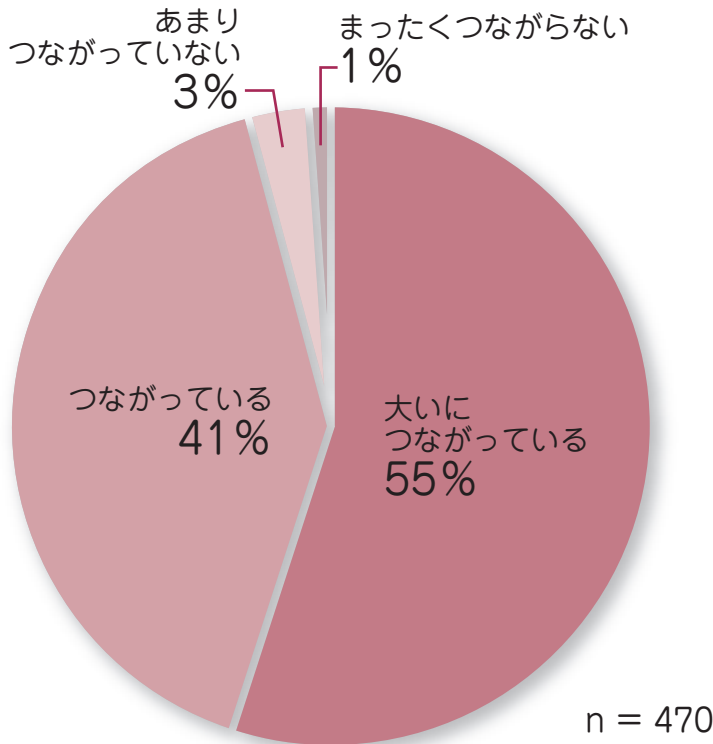


糖尿病患者さんに聞きました

## Q. 検査値は、あなたの療養生活への意識向上につながっていますか？



96%の患者さんが、意識向上につながっていると答えました。各検査の認知度では、99%の患者さんがHbA1cを「知っている」とのことでしたが、GAは39%、FRAは

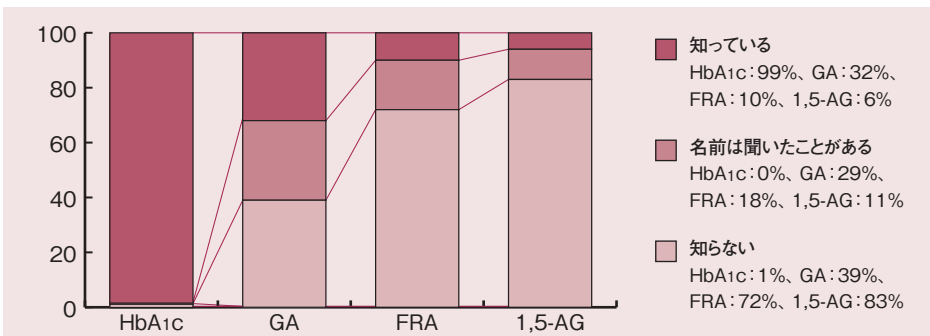
72%、1,5-AGは83%が「知らない」との回答。これらの数値が、いつの血糖を反映しているか？について聞いてみると、正解率は、HbA1cは95%、GAは21%、FRAは6%、

1,5-AGは5%で、もともと「わからない」と回答した方はそれぞれ、3%、73%、91%、93%でした。

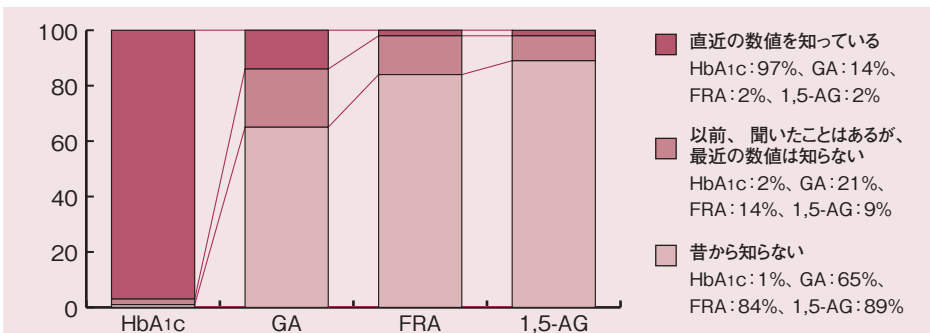
さらに、患者さんご自身の値については、HbA1cは97%の方が直近の数値をご存知でした。それ以外の検査では、「直近」もしくは「以前聞いたことがある」を合わせると、GAは35%、FRAは16%、1,5-AGは11%、とのことで、検査自体あまり実施されていないこともうかがえます。

自由記述では、「励みというか戒めというか、そういう重要な数値’HbA1cの数値を基礎に日々の生活(食事・運動)を送っている’前回と比べてHbA1c値の上下を見ておしまいの機械的な診察なので、もっとアドバイスがほしい’検査結果のプリントは、誰が見てもわかるように書いてあればいいのに’今回のアンケートを目にするまで、HbA1c以外、全く聞いたことがない検査ばかりだった’など、多数の意見や感想をいただきました。

### Q. 以下の検査を、ご存知ですか？ (n=470)



### Q. ご自身の数値をご存知ですか？ (n=470)



#### ●コメンテーター●

**鈴木吉彦** (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

4指標の中で、HbA1cが糖尿病診断基準の軸とすれば、他の3指標は別の意義を示唆するとも言えるでしょう。例えば、私の施設の人間ドックでは、HbA1cは血糖コントロールの指標、1,5-AGは食後高血糖の指標、と「割り切って」説明しています。外来では、こうした割り切りができないのが残念です。しかし、GLP-1関連製剤が発売され、HbA1cが5%台の患者が増えてきている実状では、検査の保険診療における丸めの問題はあるものの、1,5-AGも含め他の指標を見ることの有用性はより高まります。今後は治療方針の変化が、指標測定の意味の変化にどう反映されるかを知るのが楽しみです。